



勝手にしやがれ【4Kレストア版】

1960年(2020年4Kレストア版) / フランス映画
配給: オンリー・ハーツ / 90分

2022(令和4)年5月17日鑑賞

テアトル梅田

| | |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------|
| 監督・脚本・台詞: | ジャン＝リュック・ゴダール |
| 出演: | ジャン＝ポール・ベルモンド / ジーン・セバーグ / ダニエル・ブーランジェ / ジャン＝ピエール・エール・メルヴィル / アンリ＝ジャック・ユエ |

👁️👁️ みどころ

『気狂いピエロ』と同じく、冒頭の殺人事件から始まる本作も男女2人の逃避行。フランスのヌーヴェルヴァーグの鉄則は、「考えるな！感じろ！」だが、途中で突然歌い出すのは、あまりにあまり・・・。

『気狂いピエロ』と同じく本作でも男女のかみ合わない会話に注目。しかし、次第に追い詰められていった主人公の最後の行動は？これぞヌーヴェルヴァーグだが、同時に『勝手にしやがれ』、と言いたくなるのは私だけ？

1977年に『勝手にしやがれ』を歌った沢田研二は最高にカッコ良かったが、60年前のジャン＝ポール・ベルモンドのカッコ良さは？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆『気狂いピエロ【2Kレストア版】』に続いて、ジャン＝リュック・ゴダール監督×ジャン＝ポール・ベルモンドの『勝手にしやがれ【4Kレストア版】』を鑑賞。両作ともフランスのヌーヴェルヴァーグの代表作だが、そもそもヌーヴェルヴァーグってナニ？かつてフランスのヌーヴェルヴァーグが世界を席卷したのは事実だが、50年後、60年後の今は、さて？

◆映画と同じように、音楽の世界も時代の流れに伴う変遷が顕著。今やテレビのBS放送の音楽番組では懐かしい昭和の歌が大人気だ。西郷輝彦は先日亡くなったが、橋幸夫はまだ現役。五木ひろしと八代亜紀は多くの番組で司会を含めて大活躍している。そう考えると、フランスのヌーヴェルヴァーグも昭和演歌や平成のニューミュージックと同じように、懐かしみながら観ればいい・・・？

◆『気狂いピエロ』は奇妙な殺人事件から物語がスタートしたが、本作もそれは同じ。違うのは、『気狂いピエロ』はジャン＝ポール・ベルモンドとアンナ・カリーナの共犯だったのに対し、本作はジャン＝ポール・ベルモンドの単独犯であることだ。

他方、両作に共通しているのは、主人公の逃避行に付き合う女性が、『気狂いピエロ』は昔なじみであるのに対し、本作は知り合っただけのアメリカからの留学生であること。そのため、両作とも逃走中に交わす2人の会話をメインとしたヌーヴェルヴァーグ作品だが、その会話内容には大きな違いがあるので、それに注目。

◆逃走の末に追い詰められ、ついに逮捕もしくは射殺、そういう犯罪モノは多い。しかし、本作もそれと同じ結末に至るのだが、そこに至るまでの主人公の行動は両作ともある意味ハチャメチャ。しかし、ヌーヴェルヴァーグだからそれが予測不可能なところがミソだ。さらに、本作のラストでも、主人公は救助のために投げ出された拳銃を手になく、「疲れた！」と言うだけだから、アレレ、アレレ……。ちなみに、沢田研二が歌って、1977（昭和52）年の日本レコード大賞を受賞した名曲が『勝手にしやがれ』だが、あの曲を歌う彼は最高にカッコ良かった。しかし、本作に見るジャン＝ポール・ベルモンドのカッコ良さ？

2022（令和4）年5月26日記

— 追記 ゴダール監督が死去！ —

初期の代表作2作をじっくり鑑賞した4カ月後の9月13日、ゴダール監督が91歳で亡くなった。私の大学入学は1967年4月だから、60年の『勝手にしやがれ』も、65年の『気狂いピエロ』も中学、高校時代には観ていない。中・高時代の映画館通いの中で私が観ていたのは、一方で日活の「青春モノ」だったし、他方で3本立て55円の洋モノの名作（旧作）だった。ロバート・ワイズ監督の『ウエスト・サイド物語』（61年）ですら眩しかったあの時代、“ヌーヴェルヴァーグ”を標榜し、その旗手として世界中の映画界に影響を与え始めたゴダール作品は縁遠いものだった。フランス映画の『太陽がいっぱい』（60年）やイタリア映画の『ひまわり』（70年）にはたどり着き、また、ソ連の問題作『ドクトル・ジバゴ』（65年）等にはたどり着いても、ゴダール作品には容易にたどり着けなかった。それは学生時代も修習生時代も同じ。弁護士になってからも同じだった。

巨匠ゴダールは、ベルリンでもヴェネチアでも最高賞を受賞したが、カンヌでは3D映画『さらば、愛の言葉よ』（14年）で審査員賞を受賞しただけ。その原因は、「受賞式に彼が来場しなかったため」と言われているが、さて……？

ゴダール作品は難解だから、正直、私は苦手だが、近時のわかりやすさばかり追求した、制作委員会方式のバカバカしい邦画の大量生産は論外！ゴダール亡き今、改めて彼の価値と偉大さを勉強し直したい。

2022（令和4）年10月17日追記